

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2012年 第15週 (4/9-4/15) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		15週	14週	13週	12週
小児科		17	17	17	17
眼科		4	4	5	5
インフルエンザ*		27	27	27	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 4/2-4/8 14週
		注意報	4/9-4/15	4/2-4/8	3/26-4/1	3/19-3/25	
			15週	14週	13週	12週	
小児科	RSウイルス感染症		0	2	1	0	9
	咽頭結膜熱		0	2	0	0	57
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		18	21	27	24	179
	感染性胃腸炎	○	181	162	140	130	1,050
	水痘		7	10	6	7	150
	手足口病		2	0	1	1	3
	伝染性紅斑		0	0	1	0	11
	突発性発しん		8	8	8	9	57
	百日咳		0	1	1	0	2
	ヘルパンギーナ		0	0	2	0	0
	流行性耳下腺炎		3	2	3	3	30
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザ*を除く)		67	118	233	339	1,030
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		2	2	0	0	13
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	2
	マイコプラズマ肺炎		1	0	2	2	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1	0	3	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(4件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	画像診断	結核	女性	40歳代	QFT
結核	女性	30歳代	QFT	結核	女性	80歳代	病原体等の検出

・結核4件(105)の報告があった。

( )内は2012年累積件数 ※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第15週のコメント

<感染性胃腸炎>前週より増加し10.65となった。過去10年間の同時期と比較すると多め。

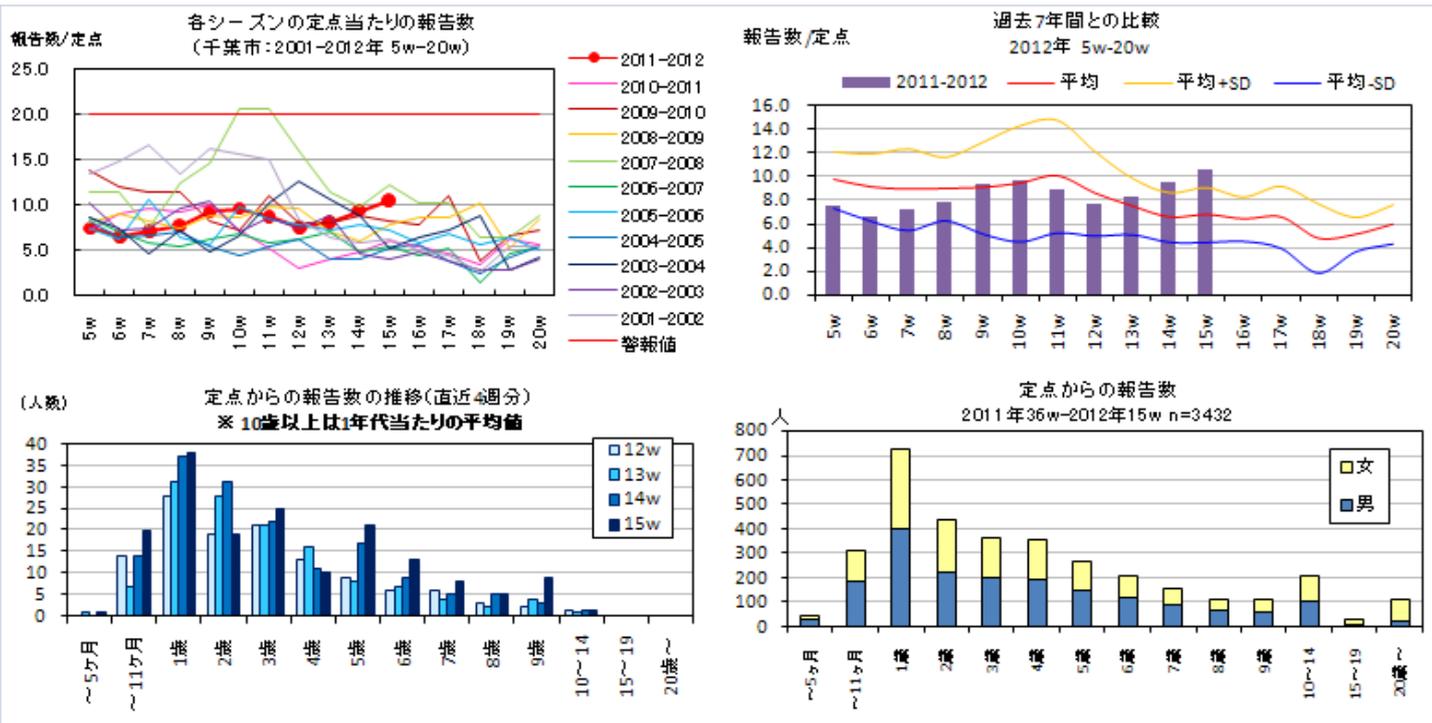
## トピック

### < 感染性胃腸炎 >

2012年の全国レベルの第14週現在は、過去5年間の同時期と比べてほぼ例年並みとなっています。都道府県別では、四国及び九州で多い傾向にあり、愛媛県、大分県、福岡県の順で発生が多く見られます。千葉県は全国レベルと比べてやや多めです。千葉市の第15週現在は、前週から更に増加し10.65となり、過去10年間の同時期と比べると平均+SDを上回り多めとなっています。区別の発生状況は、稲毛区と美浜区で多い一方、花見川区と若葉区で少なくなっています。稲毛区と美浜区において、共に1歳で多くなっています。

感染性胃腸炎の原因はサルモネラなどの細菌によるもの、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるもの、クリプトスポリジウムや赤痢アメーバなどの原虫によるものがありますが、冬期の感染性胃腸炎の多くはウイルスによるものです。ウイルスによる流行期は12月頃から3月にかけてであり、例年では年末にノロウイルスによる大きなピークを形成し、早春にはロタウイルスによる流行がみられます。

感染者の糞便や吐物には大量のウイルスが排泄され、またウイルスが乾燥して空中に漂い経口感染することもあるので、汚物や便は乾燥しないうちに処理しましょう。汚物が付着した床等は、手袋を使用し、次亜塩素酸ナトリウム液(塩素濃度約0.1%)で浸すように拭き取り、使用したペーパータオル等はビニール袋などに密封して廃棄しましょう。



### < デング熱 >

2012年の全国レベルの第14週現在の累積報告数は、過去5年間の同時期と比べて最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、千葉県の順で多くなっています。千葉市は、2012年第15週現在、2件の報告がありました。

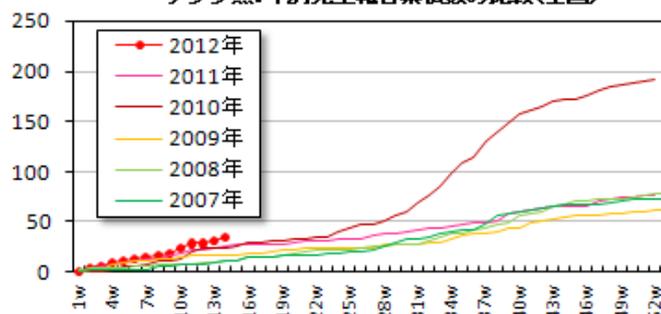
デング熱は、ネッタイシマカやヒトスジシマカによって媒介されるデングウイルスの感染症で、非致死性の熱性疾患であるデング熱と、重症型のデング出血熱やデングショック症候群の二つの病態があります。デングウイルス感染症がみられるのは、媒介する蚊が存在する熱帯・亜熱帯地域、特に東南アジア、南アジア、中南米、カリブ海諸国ですが、アフリカ、オーストラリア、中国、台湾においても発生しています。日本国内での感染はなく、海外旅行で感染して国内で発症します。

デング熱は、感染3~7日後、突然の発熱で始まります。頭痛特に眼窩痛・筋肉痛・関節痛を伴うことが多く、食欲不振、腹痛、便秘を伴うこともあります。発症後、3~4日後より胸部・体幹から始まる発疹が出現し、四肢・顔面へ広がります。

デング出血熱は、デング熱とほぼ同様に発症して経過した患者の一部において突然に始まります。発熱が終わり、平熱に戻りかけたときに重篤な症状が起こることが特徴的です。患者は不安・興奮状態となり、発汗がみられ、四肢は冷たくなり、胸水や腹水が極めて高率にみられます。また、肝臓の腫脹、血小板減少、血液凝固時間延長が起こり、多くの例で細かい点状出血がみられます。デング出血熱は、適切な治療が行われないと死に至る疾患です。

予防に関しては、日中に蚊に刺されない工夫が重要です。具体的には、長袖服・長ズボンの着用、昆虫忌避剤の使用などです。

デング熱:年別発生報告累積数の比較(全国)



## <性感染症>

**性器クラミジア感染症**は、日本で最も多い性感染症(STD)です。女性患者の報告数が急増していることが特徴で、妊婦検診において正常妊婦の3～5%にクラミジア保有者がみられることから、自覚症状のない感染者はかなりのものと推測されています。妊婦の感染は、新生児のクラミジア産道感染の原因となり、新生児肺炎や結膜炎を起こします。

**性器ヘルペスウイルス感染症**は、単純ヘルペスウイルス(HSV)の感染によって性器やその周辺に水疱や潰瘍等の病変が形成される疾患です。初発(急性型)と再発(再発型)、および非初感染初発(誘発型)の3種類の臨床型に分かれ、症状は初発(急性型)がもっとも重いとされています。感染機会があつてから2～21日後に外陰部の不快感、掻痒感等の前駆症状ののち、発熱、全身倦怠感、所属リンパ節の腫脹、強い疼痛等を伴って、多発性の浅い潰瘍や小水疱が急激に出現します。

**尖形コンジローマ**は、ヒトパピローマウイルス6、11型などが原因となるウイルス性性感染症で、生殖器とその周辺に発症します。外陰部腫瘍の触知、違和感、帯下の増量、掻痒感、疼痛が初発症状となることが多く、表面が刺々しく角化した隆起性病変が特徴です。

**淋病**は、淋菌の感染による性感染症です。最近の疫学的研究によれば、淋菌感染によりHIVの感染が容易になると報告されており、その意味でも重要な疾患です。男性の尿道に淋菌が感染すると、2～9日の潜伏期を経て通常膿性の分泌物が出現し、排尿時に疼痛を生じます。女性では男性より症状が軽くて自覚されないまま経過することが多く、また、上行性に炎症が波及していくことがあります。

千葉県は、2012年3月現在、全国レベルと比べていずれも多い水準にあります。

尖形コンジローマ以外は、性器部のみならず、口腔部でも発症します。予防方法は、いずれも性的接触時にはコンドームを必ず使用することです。また、本人が治療してもパートナーとの間でお互いに感染させるいわゆるピンポン感染があるため、症状がある場合は本人のみならずパートナーの治療も重要です。

